

平成30年 8月16日 (木)
にぎたつ会館

はじめに、先般の豪雨災害によりお亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。そして今、地域の復興に向けて日々努力されておられますみなさまに、心より応援・支援をいたしたいと存じます。

それでは、第49回全国高等学校農場協会四国支部大会の開催に当たりまして、一言お祝いを申し上げます。

全国高等学校農場協会におかれましては、昭和27年の設立以来、学校農場の充実と教職員の資質向上に意欲的に取り組まれ、我が国の農業教育の発展に多大な貢献をされていることに対しまして、心から敬意を表する次第でございます。

さて、今年6月、内閣総理大臣を本部長とする「農林水産業・地域の活力創造本部」において、「農林水産業・地域の活力創造プラン」の改訂が行われ、農林水産業の経営におけるICT等の活用や6次産業化、輸出の促進をはじめ、付加価値を高める新商品の開発や国内外の市場における需要開拓とともに、農林水産業と地域の活性化を表裏一体で進めていくことの重要性が示されました。

このような国の方針を踏まえ、四国各県の農業高校におかれましては、特色ある農業教育に、積極的に取り組んでいただいているところであり、本県においても国際水準のグローバルGAPの認証取得についての研究を行い、農業教育の新たな展開への対応を進めているところでございます。

今年3月に告示された新高等学校学習指導要領では、生徒たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出すことができるよう、これからの社会に必要とされる資質・能力を確実に育成することが求められています。

そのためには、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことができる、「社会に開かれた教育課程」が重要となり、今後は、平成34年度入学生からの実施に向け、農業教育の新たな展開が、一層図られるものと思われます。

本日からの2日間、各県が抱える農業教育の諸課題について、研究発表、研究協議等が行われると伺っておりますが、農業やその地域の持つ潜在力を更に伸ばし、今後の農業教育の在り方についての改善・充実の方向性が示されるものと、大いに期待しております。

終わりになりましたが、全国高等学校農場協会四国支部の今後ますますの御発展と、皆様方の御健勝と御活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。